地元の魅力「方言について」　第四回　　H28年1月.4日

　先日、有志の方々参加頂き昔を語りながら今後を探る「昔を語る会」を開催。具体的には、昔を知る人に集まってもらって雑談形式で昔を思い出してよき時代の地元の魅力を引き出していく内容です。
第１回は少人数の年配者と興味ある有志の方々のお話をお聞きしました。
まずは、・紙漉き(飯能の紙)・お蚕(給桑,まゆかき機織)・筏流し・焼物・茶摘み・食物(麦、うどん、地場野菜栽培)・水車(脱穀)・西川材などなんでも結構。

昔の産業など豊かさが見える昔を知りたいと、西村一男氏著書(ふるさと漫録)郷土資料を参考に話しを進める。
その中で、筏流しは増水(ダムを作り水を溜めることもある)した時に流し下流までまとめて流す。山より木を下ろすことは大変な事業、名栗郷土館に展示あり、寄居の水車展示、玉淀川の博物館(荒川/入間川)にも貴重な展示が多くある。
その筏流しの一説で話された内容と方言を記載。　“宿無し者の恥辱”
　じゃァ、その笹井とか常宿のところまでいけなかったらどうするのですか。
・うン、いけなけりゃァしょうがにゃァ、どこか途中の百姓家へでも無心するだがナ。「どうか一晩…」ってお願いするのよ。一度なんかァこんなこともあってわすれもさんにゃァ(忘れることもできない)…風が強くてね、どうすることもできにゃァ。薪をドイと担いで(たくさんの薪を手みやげ代わりにかついで)いったら「オッソロシイ！(思いがけない物事に出合ったときなど、口をついてでる驚嘆の声)あに(何)商売だえッ」。
また、方言について第１回～3回を掲載分を紹介、年配者には懐かしい言葉で話がはずむ、普通に話していたが今では殆ど聞かれなくなったしまったとのこと。
“とんちんかん”の意味は、かじやの“とんてんかん”から出た言葉と説明頂く。
コジュケイは滅多に姿見られないが、鳴き声も方言「こっちこい、こっちこい」「ぎゅちょほい」と違いがある。
本題の住まい、暮らし、食物、あそび・行事などの方言を洗い出してみました。
・おぼちゃ ⇒風呂(お爺さんよ、おぼちゃが沸いたから入ったら)
・でんきんばしら ⇒電気柱、電柱　・とぼお(ぐち) ⇒玄関(ぐち)
・かんからかん ⇒缶　・くね ⇒垣根　・こっぱ ⇒木端、木片、取るに足らぬつまらないもの　・でえどこ(ろ) ⇒台所　・てのごい ⇒手拭い
・やきば ⇒火葬場　・あぶらげ ⇒油揚げ　・おこわ ⇒赤飯　・こうこ⇒漬物
・かつぶし ⇒鰹節　・かしゃあもち ⇒柏餅　・かてめし ⇒糧飯(混ぜご飯)
・からみ ⇒大根下ろし、辛味　・しらや ⇒白和え　・よごし ⇒胡麻味噌和え
・えす ⇒椅子　・きびしょ ⇒急須　・どびしょ ⇒土瓶　・はこっかけ ⇒箱物

・でんきちこんき ⇒電気蓄音機　・てびしょ ⇒小皿　・こうもり ⇒傘
・とんかち ⇒金槌　・おしと ⇒お手玉 ・かくね(れ)っこ ⇒かくれんぼ
・おしらこう ⇒おしら(蚕)講,養蚕農家のまつり　・おにどっこ ⇒鬼ごっこ
・おぶすなさま ⇒産土(うぶすな)・産土神・氏神　・たんじゃく ⇒短冊
・だいじんぐさま ⇒天照大神宮・神棚　・しべえ・しばや(びゃあ) ⇒芝居
・たかあし ⇒高足(竹馬)　・ちんけん・ちっちゃ ⇒じゃんけん
・てんじんこう ⇒天神講(菅原道真の命日に行われる祭り) ・でえじん⇒富豪
・とうせんかんば ⇒とうせんぼ

飯能のことば　民俗茶ばなし 小谷野寛一著書より抜粋。
・あじょうにも ⇒原市場で聞いたことがある。「あしたの遠足は、あじょうに天気にしたい」というふうに使っていた。「ぜひ」「どうしても」という気持ち。「万一にも」という内容で使うところもあるらしい。
・いいころ加減 ⇒「いい加減」とは、二つの意味に使われる。「いい加減の風呂です」なら良い方。「あいつはいい加減なやつだ」なら悪い方。「いいころ加減」は悪い方が多そうだ。
・こく ⇒「うそこけ！」などという。飯能地方での悪い言葉の一つ、と思いきや、これは辞書にもある折り目正しい言葉。漢字で「放く(こく)」と書く。意味は言う、ぬかす、はなつ、ひる、である。
言う・ぬかす⇒うそをこく　放つ・ひる⇒屁をこく　というわけだが、言葉は時代によって響きが違ってくるものなので、今の世にあまり「こく・こく」と使ってもらいたくない。
・だいじんこ ⇒などと、山間部ではまだ聞く言葉だが、この「こ」は、家をさし、人をさし、身分をさすように響く。「こ」について少し分類を試みると…
① 事(こと)を略して「こ」という場合。
取りつく事⇒とりっこ、　くらべ事⇒くらべっこ、
引っ張り事⇒ひっぱりっこ
② 状態を表す場合　ぺっちゃんこ、ぴったんこ、どろんこ
③ 愛称の場合　牛⇒べこ、よめ⇒よめこ、根⇒ねっこ、背・妹⇒背こ、妹こ
④ 人(労働力)を意味する場合　水夫⇒かこ、船子⇒ふなこ、勢子⇒せこ

飯能地区の方言調査表があって、には次のような個所が見える。「い」と「え」の使い分けができない。言いだすを、ええ出す。枝を、いだ。前を、まい と言う。
「ひ」と「へ」が間違う。ひいきを、へえきと言う。
「あ」と「や」がまじる。見合いを見やい、場合を、場やいと言う。
「ゆ」と「い」では、かゆをかい、まゆを、まいと言う。

地元の魅力 Map

原市場房ヶ谷戸地区ザバミの日の出と水面反射

原市場 県道二の瀬橋付近

次号に続く